

光和コンピューター セルフレジ販売に本腰

21年末まで50書店導入へ 書店アンケート「関心ある」40%超

光和コンピューターは来年から書店に向けセルフレジ、「KPOSセルフ」の販売を本格的に推進していく。12月初旬、全国の書店250法人を対象にしたアンケート調査で、4割以上の書店がセルフPOSに「関心がある」と回答。新型コロナウイルス感染者が全国で増加し、アルバイトが集まらない書店経営者の危機感が高まっている。同社ではこの結果を受け、2021年末までに50書店へ導入していく。

宮脇書店 越谷店 客の2〜3割が利用

光和コンピューターは今年8月、来店客自身が決済できる「KPOSセルフ」を開発。同月にくまざわ書店武蔵小金井北口店(東京)が導入、9月には宮脇書店越谷店(埼玉)が導入を前提にしてテスト運用を始めていく。

操作は、①ポイントカードの有無を選択、②商品を選択、③決済、④レシート発行とシンプルだ。書籍・ムックなどのISBN、雑誌コード、文具・雑貨などに表示されるJANコードにも対応。店舗独自のポイントカードもハウスカードとしても使用できる。



宮脇書店越谷店に設置された「KPOS」

宮脇書店越谷店では、レジ横に1台設置。同店の加藤克宣社長は、手数料が発生するク

カード、各種Payなどの運用には慎重で、いまは「現金決済」に限定している。それでも購入者の2〜3割程度がKPOSセルフを利用して決済しているという。通常の対面レジを避け、「すぐに買って帰りたい」という客が多いようだ。また、同店では「鬼滅

の刃」(集英社)28巻の発売日だった12月4日、操作に戸惑う客で店内に列ができてしまった。「セミセルフ型」に切り替えて客を捌いた。フルセルフ型での決済時間は1〜2分だが、書店スタッフが手伝うセミセルフ型の方が2倍以上速いという。

「KPOSセルフ」の価格は170万円(POSレジ本体、スキャナー、プリンター、釣り銭機、筐体什器込み)。オンラインで、クレジットカード・電子マネーの決済端末(6万円)、トランプや店員の呼出しを知らせる「パトランプ」(6万円)がある。

光和コンピューターは、セルフレジを導入した場合、約2年半アルバイト1人分の人費が回収できると試算している。